

福島県沖を震源とする地震被災者支援活動に
ご協力をいただいた皆さま

(特活) ADRA Japan
国内事業課 三原千佳

2021 年 2 月 13 日発生 of 福島県沖を震源とする地震被災者支援活動のご報告

1. 災害名 福島県沖を震源とする地震
2. 活動場所 宮城県亘理郡山元町
3. 活動期間 2021 年 2 月 13 日～28 日

4. 概要

2021 年 2 月 13 日（土）23：07 頃に発生した福島県沖を震源とする最大震度 6 強の地震は、津波の発生はありませんでしたが、主に福島県と宮城県の一部で物の落下、地割れ、停電、断水、屋根の瓦の落下、窓ガラスの破損などを引き起こしました。東日本大震災時に ADRA Japan が長期で支援に入った宮城県山元町は、震度 6 弱を観測しました。防災科研の公表している情報では山元町の南に位置する一部の地区は震度 7 を記録しています。町内では半壊 35 世帯、一部損壊 1,304 世帯（参照：消防庁 2021 年 3 月 29 日現在）もの住家被害がありました。今回の地震は東日本大震災から間もなく 10 年という時期に起き、その時期と規模から住民の方々は非常に不安な思いをされていることは容易に想像がつかしました。

地震発生直後から現地と連絡をとり、これまで繋がりのある方々の安否確認と情報収集に努めました。連絡をとる中で、住民の精神的不安に寄り添う支援が必要だと感じ、コロナ禍であってもできる支援としてプチギフトをお送りすることになりました。

5. 活動内容

被害はでているものの、町内のスーパーや商店は通常営業できており、断水も一部を除いて比較的すぐに解消しました。最も長く断水していた地区では 18 日まで続きましたが、その間給水車もでており、避難所では備蓄の飲料水もあったことから緊急の支援物資までは必要とされませんでした。そのため、今回は精神的負担に寄り添う支援としてプチギフトをお届けしました。プチギフトは、山元町内でも被害が多かった坂元地区にある「山元町防災拠点・坂元地域交流センター（ふるさとおもだか館）」様、独居の方や高齢者の方の見守りも行っている「山元町社会福祉協議会」様、乳幼児親子が主に利用する「子育てひろば夢ふうせん」様、地域の方の自主的な活動を行う場として利用できる「オレンジハウス」様への合計 500 袋お届けしました。これらの団体を通じて住民の方々のお手元に届けることができました。

現地での作業負担軽減のため、各商品は全て ADRA Japan 東京事務所で袋詰めを行い、現地では届けられた段ボールを開封後にそのまま配布できるようなかたちにしました。

また、気持ちをお伝えするためにメッセージカードを同封しました。

6. 活動写真



町内の被害状況



町内の屋根の被害



一袋にまとめたプチギフト



ふるさとおもだか館さんへの寄贈



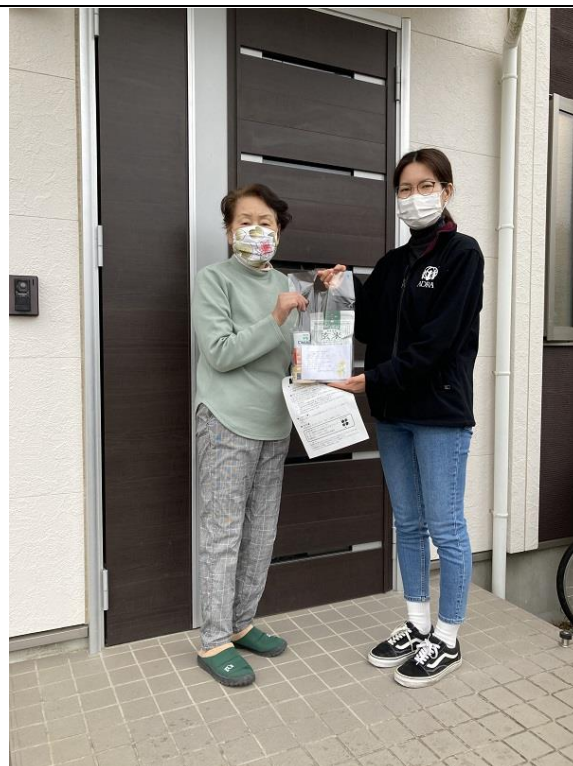
おもだか館さんからの配布



おもだか館さんからの配布



社会福祉協議会さんへの寄贈



社会福祉協議会さんから住民の方への配布



夢ふうせんさんへの寄贈



夢ふうせんの職員さん



夢ふうせんの利用者の方への配布



オレンジハウスさんから爺7さんへの配布

7. 住民の方の声

「地震があつてすぐに連絡をいただいたので嬉しかったです。」（夢ふうせんの職員の方）

「一人暮らしで地震の時は不安でいっぱいだった方がいると思います。そのようなお宅に訪問する際にも持っていきたいと思います。」（社会福祉協議会職員の方）

「昨日からやっとお風呂に入れました。（2月18日時点）」（小さな子供を育てるお母さん）

「わ～早く使ってみたいです。嬉しいわねー。いつも気にかけてくださってありがとうございます。」
（50代女性）

多大なご支援に心より感謝申し上げます。